

あおぞら診療所墨田

藤木隆男建築研究所

AOZORA CLINIC SUMIDA

Fujiki Takao Atelier

・ The clinic, offering home-based care to children with severe disabilities, relocated from its original location to an existing office building.
 ・ The floor is articulated in two zones: The clinic zone with a wooden interior finish and the office zone where workers coordinate home-based care with a functional design.



Related Information

Location: Sumida, Tokyo. Architect: Fujiki Takao Atelier.
 Floor area: 559 m². Structure: Reinforced concrete.
 Completion: October 2013



玄関・受付 Entrance, reception



待合ホール Waiting hall

□ 小児の在宅医療

あおぞら診療所墨田は、2011年に本所吾妻橋に開設したが、より多くの患者に対応できるよう今回、駒形橋近くの既存賃貸オフィスビル2階を改修し移転した。

「あおぞら診療所」の対象は、重度の障害や疾患を持ち、絶え間ない医療ケアを必要としつつ、自宅で生活をする子どもたちである。その子どもたちを助ける為、またその家族を助ける為に、前田院長を始めとする医師や看護師、スタッフが集まり日夜活動している。

現代、新生児医療の進歩により、多くの子どもの命が助かるようになった。その一方で、重篤な障害や疾患と付き合い続け、人工呼吸器等の医療機器に頼らざるを得ない小児が増えている。医療が進歩し、様々な病が治る時代だからそれだけで良いのではなく、治らない子どもたちの命とその環境へのケアが同時に必要とされている。つまり、障害や疾患の程度に関わらず、その子なりの人生を送り、その子なりの幸せを感じてもらえるようなQOLを考え、その環境を整える事が必要である。

□ 緩やかなワンルーム

約550m²、天井高さ2,800の広大なワンルーム空間は、2つに大別される。東側（スカイツリー側）に家庭的な「診療所」、西側（隅田川側）に在宅医療活動の拠点としての「ステーション」である。その2つの空間の間に円形の薬品庫を配し、機能的な配置構造としつつ、2つの空間を緩やかに繋ぐ特徴的なオブジェ（家具）として計画した。

「診療所」は、来訪する子どもたちがまた来たくする雰囲気を作り出す事に腐心した。天井高さを2,500まで下げ

住宅的なスケールとし、床暖房対応の無垢フローリングや、クリヤー仕上げの化粧合板を多用した温かい木質空間を、触覚的な木製家具を得意とする家具デザイナーの椎名啓二氏と協同して作り込んだ。

ダイルムは、一時預かりや、レスパイトケアの場と想定され、介助のしやすい大きな浴室やトイレも配備した。当初貸事務所として計画された既存ビルの専有部分には、給排水設備が無かったが、圧送排水ポンプによる天井廻しの排水設備によって、自由な位置に水回りを計画する事が可能になった。また、ダイルムや診察室には、物干フックを天井に一定ピッチで設置しており、吊り棒を付ける事で、適当な位置で、点滴・経管栄養剤による食事や、子どもの腕を支えて作業の補助を行う事が可能である。これは、連携するチャイルドデイケア「ほわわ吾妻橋」の看護師よりの要望であった。

「ステーション」は、医師・看護師・事務職らの机が整然と並ぶ。大型スクリーンをおろせば、スタッフ全員による朝のカンファレンスを自席についたまま行えるよう配置した。訪問診療の性質上、円滑な情報共有が必須であり、全員で一つの机を囲むようなイメージである。スタッフは朝の会議が終われば、隣の薬品庫で往診機材の準備をし、それぞれのチームに分かれて外出する。スタッフスペースは、機能的なだけでなく、過密スケジュールの往診から帰ってきて安らぐ場所としての性格も必要である。休憩スペースには、診療所側と同じ椎名氏デザインの家具を配し、また、理事長室や管理室の壁を強化ガラススクリーンとすることで、開放的かつ変化のある空間作りを目指した。



薬品庫 Medicine room with cabinets in a circular arrangement



ダイルム Day room



休憩・研修 Refresh corner and meeting space



マーナビル外観（写真右側） The building (to the right)



PLAN 0 25 5M 1/300

建築概要	
名称	あおぞら診療所墨田
所在地	東京都墨田区東駒形1-3-1
建築主	医療法人財団 はるとか会
設計監理	(株)藤木隆男建築研究所 (株)知久設備計画研究所
施工	(株)不破工業
専有面積	559 m ²
構造	鉄筋コンクリート造
工期	2013年6月～2013年10月

椎名氏製作家具

あおぞら診療所の活動は、全国に展開しており、遠隔地とのテレビ会議や、データの往来もある。また、訪問看護ステーションや保育所との連携も行っており、業務形態は流動的である可能性がある。その為、「ステーション」は高さ80mmのフリーアクセスフロアとし、仕切りとなる家具以外は既製品を利用し、模様替えに対応できるようにしている。また、スタッフスペースの一部を研修スペースとし、研修や学会の分科会などにも利用できるよう音響設備も設けた。

□ 医療業務形態の特殊性とQOL

小児の在宅医療を専門に行う診療所としての要件から今回の平面計画に至った。スタッフ裏動線がないことや、目に見える場所に薬品庫を配置する等、診療所としては計画学上の常識から逸脱する平面計画であるが、新しい事業形

態である「あおぞら診療所」の活動を、機能的かつ象徴的に解決するプランとして導きだされた。

在宅医療に限らず、レスパイトケアなどのニーズに対しても現状では、法整備が整っているとは言いがたく、今後様々な形態の医療福祉に関する事業所が現れると思われる。その時その時に、機能的な部分だけでなく、利用者の視点でQOLを考え続ける事が設計者にとっても重要である事を、本件に関わる事で再認識した。

「人間世界の発展とは、すべての人が幸福に暮らすことである。どんなに科学技術が発展しても、それが人間の幸福に還元されなければ、社会は発展したとは言えない。」前田院長の言葉である。その「社会の発展」のため、設計を通じて少しでも役に立つことが出来ていれば、幸いである。（藤木隆男建築研究所／下川太郎）